

# ふるさと研究ニュース

2009年10月 第4号

所沢市生涯学習推進センター  
ふるさと研究担当



「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

## 3階企画展示室秋季展示

平成21年10月20日～11月15日

月曜祝日を除く9時～17時

# ところざわ発掘物語

～ようこそ古代の所沢へ～

市内に160カ所以上の遺跡（「埋蔵文化財包蔵地」）があるのをご存知ですか？古くは1万年以上前の石器から、新しくは大正時代の道しるべまで、地中からは実にさまざまなものが見つかります。北野二丁目にある市立埋蔵文化財調査センターは、市町村立としては県内初の平成6年に開館し、開発等で消えゆく遺跡の記録保存にあたる専門の施設です。

かつて生きて人々によって作り出され、工夫されてきた道具の数々、またそれらが発見されたときの様子——文字で伝わる歴史とはひと味もふた味も違う、臨場感あふれる昔の人々の暮らしを、同センター所蔵の本物の遺物と解説パネルで味わっていただきます。

また11月4日（火）からは、同じ階の第2会場で「東の上遺跡発掘の軌跡（あずまのうえいせきはつつのきせき）」と題した特集展示を開催します。これまでに80回以上も調査されている東の上遺跡は、今年の4月には市の史跡にも指定された市内有数の遺跡です。どうぞご期待下さい。



## 10月にご覧いただける展示など

場所	内容	
企画展示室	ところざわ発掘物語 ～ようこそ古代の所沢へ～	
常設展示室	所沢の歴史・昔の暮らし・自然など	
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」	
南棟3階階段脇掲示板 ミニ写真展	新所沢地区の移り変わり part1 西口編 小手指地区の移り変わり	10月9日（金）まで 10月10日（土）から
3階中央棟廊下壁 今月の航空写真	椿峰区画整理地内（現在の小指南六丁目周辺）	10月31日（土）まで

所沢市生涯学習推進センター ふるさと研究担当

Tel:04-2991-0308 Fax:04-2991-0309 Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp

## 閲覧学習室を利用してみませんか？

### その2 市史①

北棟3階閲覧学習室では、皆さんの「ふるさと研究」をバックアップする資料を公開中です。さまざまな所蔵資料から、今回は『所沢市史』についてご紹介します。

『所沢市史』は、所沢について調べようとする方に最初にご案内する本のひとつです。市史の中で一番気軽に使える本は、『ところざわ歴史物語』というダイジェスト版です。もう少し詳しく知りたい時は市史の上・下をおすすめします。「上」は所沢の自然と原始古代から江戸時代までの歴史、続く「下」では明治維新から平成初年までを扱っています。この他、昔の暮らしや生業についてまとめた「民俗」や、昭和60年時点の指定文化財について解説した「文化財植物」などの巻があります。色々なテーマの論文を収録した『所沢市史研究』や、特に重要な資料を手軽に参照できるようにした資料集もあります。なお、市史は一般の書店には置いていませんので、お求めになりたい時は生涯学習推進センターまたは市役所1階の市政情報センターへお出かけ下さい。



「所沢市史」をタイトルに含む本は全部で70冊以上もあるため、何を見たら良いかわからないというお話を聞きます。そんな時は職員にご相談下さい。市史では不足の場合も、他の図書、あるいは他の機関の資料など、可能な限りご希望に添えるよう努めています。

閲覧学習室の利用にあたっては、職員が常駐していないため、3階企画展示室か4階研究室（事務室）の職員までお申し出下さい。事前にお電話などで開室の時間を予約することもできます。

## トコロは山芋ではない!?



ふるさと研究市民トピック vol. 4

所沢の地名の由来は、文明18年(1486)頃に聖護院門跡の道興准后どうこうじゅごうが現在の所沢地域を訪れた際に、トコロが多く自生していたことから「野老沢」と呼んだことに始まるとされています。(『ところざわ歴史物語』167頁)

このトコロは、正確にいうとヤマノイモ科のオニドコロ (*Dioscorea tokoro* Makino) といわれる多年生のつる草のことで、肥厚ひこうして曲がった根茎からひげ根が出ているのを腰の曲がったひげの老人にたとえ、長寿のしるしとして「野老」といい正月の飾り物の一つとしてトコロと読ませたといいいます。植物学者の牧野富太郎 (1862-1957) は、エビを「海老」としたのに対比したものであると言っています。(平凡社『日本の野生植物』)

しかし、ヤマノイモ科といっても山芋とは異なります。ヤマノイモ科の植物には、今日でも私たちが日常食する山芋や長芋などありますが、オニドコロは根茎が極めて苦いので食用には適していません。

ただ、飢饉のときの非常用の食物でした。苦味があるもののここから澱粉をとって食したといいます。羽村市や青梅市に残されている記録によれば江戸時代の飢饉の際に「トコロを喰らい」とか「野老を掘る者おおし」などの記述が見られます。また、あきる野市戸倉の光厳寺には「ところいもの碑」があるそうです。碑は、天保の飢饉の際に近隣の村びとにもトコロ芋を掘ることを許した名主を讃えたものということです。